

市長総括説明会

(9月4日)

9月定例会市議会

平成18年第4回市議会定例会

会が開かれました。

市長から説明のあった当面する市政の諸課題、ならびに提出議案の主なものについて概要をお知らせします。

豊岡病院跡地利用計画

旧豊岡病院の跡地利用については、「豊岡病院跡地利用基本計画」を5月に取りまとめ、関係者に配布したところ

です。現在、アドバイザリー業務にかかるコンサルタント業者の選定事務を進めており、9月下旬を目途に業者決定を行う予定です。

今後は、公立豊岡病院との用地交渉を行うべく、土地鑑定業務委託の準備に着手することとし、公立豊岡病院で実施される既存建物の解体工事等の様子をみながら、12月議会には用地取得費の補正予算を提案したいと考えています。

市街地循環バス「コバス」

市街地循環バス「コバス」については、今年11月に実証運行が終了するため、7月から8月にかけて3回の市街地循環バス検討委員会を開催し協議してきました。

具体的な検討結果としては、循環方式を路線往復方式に変更し、また、主要な停留所を通過する区間については、運行時間を30分間隔にするなど新たな視点を取り入れ、運行期間についても、豊岡病院跡地に計画している総合健康福祉ゾーンがオープンする平成21年度までを目途に運行の継続を行い、改めて継続の是非を判断したいと考えています。11月下旬には、運行方法を変更する予定です。

行政改革

厳しい財政状況に対応し、新しい行政需要の財源確保を図るため、行革推進の柱となる行政改革大綱を今秋に策定することとしています。

8月に開催された行政改革委員会では、すべての案件についての協議が行われ、9月末

には答申が行われる予定です。答申をいただいた後は、議会にお示しするとともに、タウンミーティングの実施など、さまざまな意見交換等を踏まえ、豊岡市行政改革大綱・実施計画を策定したいと考えています。

のじぎく兵庫国体の開催

のじぎく兵庫国体の開催が、いよいよ目前となりました。

9月16日の採火式、引き続き翌17日にかけての大会旗・炬火リレーで開催気運の盛り上げを図ることにしています。10月1日からはボート、ソフトボール、空手道、卓球の各

正式競技、デモンストレーションとしてのスポーツ行事を開催し、全国から約3万人の方々をお迎えする見込みです。これらを通じて、国体参加者に広く豊岡の文化を紹介し、新たな豊岡市ファンを増やしたいと考えています。

国体の大成功に向け、また、豊岡らしさに溢れた国体を目指し、全力を尽くしていきます。

「平成18年7月豪雨」と防災対策

今回の豪雨は、広い市域に

おける防災体制と平成16年台風23号の経験が試される機会となりました。

今回の豪雨では、総合支所長の判断のもとに避難勧告を発令しました。情報の発信については、防災行政無線（有線）のみでなく、携帯電話へのメールの発信やファックスによる同報送信、市ホームページ、コミュニティFMでの提供も積極的に行いました。

また、「災害時要援護者台帳」については、各区へ順次配布中でしたが、必要と判断した区にも急遽、配布しました。

一方、円山川支川における急激な水位上昇等、予期せぬ事態への対応や本庁・総合支所間の緊密な情報共有などについての課題も明らかになりました。民間気象予報会社から提供される水防体制指標を見直すとともに、国県との連携強化を図るための協議を行い、新たに本庁・総合支所間の連絡担当者を指定することとしました。

第2次霊園整備事業

現在の高屋霊園は、昭和45

年に供用開始して以来、逐次造成を行ってきた結果、1、311区画の霊域を保有しています。しかし、現在、新たに霊域使用を希望される100人を超える市民の待機者を抱える状態です。需要に応じた墓地を供給することは自治体の責務であり、一刻も早く新たな霊園整備を行わなければなりません。

このたび現況測量の実施ならびに基本計画を策定することについての地元合意が得られたため、今議会に補正予算を提案しています。

但馬地域における医療のあり方の検討

医療のあり方の検討

但馬地域には大学病院や国立病院、県立病院などの医療機関がなく、9つの公立病院が一般医療はもとより、高度・特殊・救急医療等を担いながら地域医療の確保に努めています。しかしながら、各病院で医師不足が深刻化し、地域住民への医療提供に重大な支障をきたしています。

このため7月12日に「但馬の医療確保対策協議会」を設置し、将来にわたり継続的

つ安定的に医療を確保・提供していくための方策を検討することとしました。

今後、統一した方向性が示せるよう議論を深めていきたいと考えています。

コウノトリ但馬空港の 路線展開

兵庫県から地元の意見を求められていた神戸路線の開設を含めた路線展開について、県および但馬地域の他市町との協議を進めてきた結果、基本的な考え方をまとめました。

高速交通の利点を最大限に活かすためには、東京国際空港への直行便乗入れが是非とも必要です。「神戸路線」については重要な検討課題であると認識しているものの、平成21年に予定される東京国際空港の再拡張に伴い、近々、県知事に對して「東京直行便」の実現を最優先課題とした取り組みを要望したいと考えています。

コウノトリの野生復帰

試験放鳥2年目の本年は、9月23日に円山川の堤防で3羽を自然放鳥するとともに、翌24日には河谷地区の放鳥拠

点で4羽の段階的放鳥が予定されています。

放鳥コウノトリの餌場ともなる円山川下流域の「(仮称)戸島湿地」の整備については、基本構想・計画策定委員会において整備案を検討していただいていところとす。今後、湿地の効果的な保全・再生策の検討をさらに深め、年内を目途に整備構想・計画を策定することとしています。

環境経済戦略の推進

地域づくりと経済効果を両立させる拠点施設として期待されている「(仮称)地域交流センター」については、8月30日に入札を執行しました。

今後、(仮称)地域交流センターのオープンに向けた準備を進め、12月議会に施設設置管理に関する条例ならびに指定管理者に関する議案を提案したいと考えています。また、環境経済戦略の先駆的事業補助制度を今年度から創設しました。この事業は、市内に事務所を置く中小企業やそのグループを対象とするもので、補助金額は最高300万円です。

佐野浄水場の改築

現在の佐野浄水場は、昭和42年に整備したもので、築後38年が経過して施設の老朽化が進み、維持管理に支障をきたしており、今回、改築を行うものです。

安心安全な飲料水の安定供給を図るとともに、業務の効率化および危機管理体制の充実を図っていきます。

豊岡市立図書館 竹野分館の整備

図書施設のネットワークについては、すでに但東、出石、日高地域で整備を行いました。竹野地域においても、総合支所がにぎわいの拠点、コミュニティの核となるよう、

現在、旧議会関係スペースを図書施設として整備を行っていきます。10月27日には、約1万5千冊の蔵書を持つ市立図書館竹野分館としてオープンする予定です。

地区公民館整備

地区公民館については、県が今年度から本格実施する県民交流広場事業も取り入れ、

公民館整備計画に基づき、整備を図っていきたいと考えています。

年度当初に予定していた福住・寺坂・城崎地区に加え、新たに但東総合支所3階を今年度中に改修整備し、合橋地区公民館として活用したいと考えています。また、中筋地区公民館についても、交流スペースを増築することとしています。

(仮称)木屋町小路 整備事業

(仮称)木屋町小路整備事業については、今年度は実施設計とテナント募集業務に着手しています。実施設計は、平面プランがほぼ確定したところで、来年3月までに完成する予定です。テナントについては、最終的に7坪から12坪程度の広さのものを10店舗配置することとしました。

テナント使用料は、起業しやすい環境づくり、周辺貸店舗の賃貸料など総合的に勘案した料金設定を予定しています。また、テナント募集業務については、10月から募集を開始できるように作業を進めています。

城崎大橋の架替え

この事業は、洪水時に冠水しない交通網の整備、円山川の流域阻害解消、城崎温泉街の渋滞解消を目指し、架橋50年を経過し老朽化した城崎大橋を県が架け替えるものです。

昨年11月に左岸側の全体説明会を開催し、関連事業である主要地方道瀬戸線緊急道路整備事業の用地交渉に入ることになり、今年3月に用地買収および物件補償1件を完了しました。4月には、この事業の1日も早い完成を目指し、新城崎大橋架橋促進期成同盟会が設立されました。また、引き続き用地を確保するため、移転意向調査やヒアリング、さらに家屋調査を行いました。来年1月ごろの調査結果をもって、用地買収を進めていく予定と聞いています。

右岸側については、各地区で事業説明会を開催し、大方の理解は得ていますが、今後とも地元との協議を進めていきます。

豊岡市のホームページに、「市長総括説明」の全文を掲載しています。